



レジェンド4 「先輩の偉大な業績をお祝します」

西高を卒業した先輩が活躍していると聞くと嬉しく思う。顔も名前も知らないが頑張っている後輩はちょっと応援したくなる。ましてや、ノーベル賞受賞やオリンピック出場となれば…。

同級生でもないのにあの西山台の学舎で学んだということだけで。自分のことのように思えるのは何故だろう。あの教室で笑い、グラウンドで汗し、友と悩みを語りながら坂道を通ったからに違いない。

先輩、後輩たちは今も元気に活躍しているのだろうか？というわけで今回の特集は、来年の新春の集いで講演を依頼した天野 浩先生をはじめ4名の諸先輩たちのインタビュー記事としました。

名古屋大学 故・赤崎勇特別教授、天野浩特別教授および米田 中村修二教授による「青色発光ダイオード」の研究業績がIEEE（アイ トリプルイー）よりIEEEマイルストーン認定を受けました。

IEEEマイルストーンは電気・電子の分野において開発から少なくとも25年以上経ち社会・産業界に多大な貢献した歴史的業績を認定する制度です。

2026年3月23日にIEEEマイル



▲マイルストーン銘板(写真提供:名古屋大学)

「青色LED」がIEEEマイルストーンとして2025年9月に認定



発行 静岡県立
浜松西高等学校同窓会
編集 齊藤 薫
町田 晃
同窓会報編集委員会
電話 053 (456) 0662



ルストーン認定記念式典が名古屋大学にて開催されました。式典にて、浜松西高卒業生である天野浩特別教授の記念講演会「世界を照らすLED—青色LED創成までの道のりと社会への貢献—」と題して講演されました。

令和9年『新春の集い』
天野 浩特別教授の
講演開催決定!!

●天野浩特別教授からのメッセージ

名古屋大学 未来材料・システム研究所
未来エレクトロニクス集積研究センター
センター長・特別教授
浜松科学館 名誉館長
天野 浩 (高31回卒)



(写真提供:名古屋大学)

このたび、青色LED実現のための

湖西少年少女発明クラブと歩んだ菅沼成欣さん
湖西少年少女発明クラブが創立50周年を迎えた。その歴史の半分近くを支えたのが、浜松西高校7回卒業生の菅沼成欣さんだ。湖西青年会議所(現在の浜名湖青年会議所)による創設当初から深く関わり、約20年間会長を務め、現



菅沼 成欣 (高7回卒)

「理念があるから、50年続いた。」

研究成果がIEEE Milestoneに認定されました。これは電気・電子技術分野において人類にとって歴史的な業績を顕彰する制度であり、当時その研究に携わった人間の一人として、大変光栄に思います。青色LEDの社会実装は、様々な世代がそれぞれの力を発揮し、多くの困難を乗り越えながら成し遂げられたものです。私自身は、浜松西高校で身につけた自ら考え挑戦する「やらまいか精神」が研究者としての原点となりました。この認定を母校の皆様とともに喜び、今を生きる後輩たちにも未知の課題へ果敢に挑戦してほしいと願っています。

在も相談役として活動が続けている。今回、同じ西高の後輩としてお話を伺うと、「発明」や「工作」の話以上に、何度も口にされた言葉があった。「理念だよ。」

西高で得た、一生の仲間

昭和30年卒業。木造校舎だった西高は、在学中に火災に見舞われ、急ごしらえの教室で授業を受けたという。柔道部に所属し、学校までは毎日歩いて通学。当時は家業を手伝いながら大学へ通うのも当たり前の時代だった。

「勉強よりも、仲間だな。」

そう笑う菅沼さん。卒業から70年以上が経った今でも、西高の仲間とのつながりは特別だという。

「西高は友達を大事にする学校だった。死ぬまで仲間だよ。」
この言葉には、世代を超えて受け継がれる西高らしさが凝縮されているようだった。

発明クラブを支えたのは「報恩創造」

1976年、湖西青年会議所が湖西少年少女発明クラブを設立した。当時、菅沼さんたちが目指したのは、単に工作を教える場ではなかった。

郷土の偉人・豊田佐吉翁の精神を子どもたちへ伝えること。その中心にある考え方が「報恩創造」である。社会への感謝を忘れず、その恩に報いるために新しい価値を創り出す。ものづくりを通じて人を育て、人づくりを通じて地域を育てる。

「ものづくりの道具は時代とともに変わる。でも、ものづくりの基本の考え方は変わらない。」
ロボットや3Dプリンターを使う時

代になっても、その思いは設立当初から変わっていない。

50年続いた理由

全国には活動を終えた発明クラブも少なくない。それでも湖西少年少女発明クラブが半世紀続いてきた理由を尋ねると、菅沼さんは迷わず答えた。

「理念があるから。」

理念があるから仲間が集まる。理念があるから支援者が増える。理念があるから次の世代へ受け継がれる。

「50周年の式典は感動する。でも、その50年間をつないできたものが理念なんだ。」

この言葉は、発明クラブだけでなく、地域活動や企業経営にも通じる重みを感じさせた。

後輩へ

最後に、西高生へのメッセージをお願いした。菅沼さんは少し考えて、こう話してくださった。

「先人から学ぶことだね。」

湖西には豊田佐吉翁という偉大な先人がいる。西高にも、多くの先輩たちが築いてきた歴史がある。その志を学び、自分なりに新しい価値を創り出していく。それこそが、「報恩創造」の精神なのだろう。

湖西少年少女発明クラブは、その思いを未来へつなぐため、今日も子どもたちとともに歩み続けている。

「開発コンサルタント」としての生き方

(株)オリエンタルコンサルティンググローバル
折下(加藤) 定夫 (高18回卒)



世界各国でインフラ整備に携わり、日本の政府開発援助(ODA)の発展とともに歩んできた折下定夫さん。その半世紀を超える歩みは、世界に挑戦する私たち日本人に勇気と希望を与えてくれます。

1966年に本校を卒業後、大学で土木工学を学び、1971年に開発コンサルタント会社へ入社。「海外で仕事したい」という思いが原点でした。翌年には独立間もないUAE・アブダビへ赴任し、日本向け原油輸出基地の建設に従事。その後、日本への原油供給の礎となる歴史的プロジェクトに携わりました。

1974年にはニューギニア島で国連開発計画(UNDP)の港湾調査に参加。石器時代の暮らしを続ける高地民族との出会いを経験する一方、帰国後には重症マラリアを発症し、一命を取り留めるという忘れ難い体験もしました。

その後はインドネシアのジャワ島・スマトラ島を結ぶフェリーターミナル建設に従事し、両島を結ぶ物流の大動脈づくりに貢献。さらに1978年から約35年にわたりジャカルタ漁港整備事業を担当しました。現地の竹杭工法を活用した護岸や防波堤、港内海水浄化システムなど独創的な技術を導入し、東南アジア最大級の漁港へと発展させました。この功績は高く評価され、2021年には外務大臣表彰を受賞しています。



▲ジャカルタ漁港全景(2026年4月撮影)

また、モルディブでは首都マレ島の護岸整備に加え、「市民が海と親しめる街にしたい」と人工ビーチを提案・実現。完成後に発生した2004年のインド洋大津波では、設計した護岸が街を守り、死傷者ゼロという大きな成果をもたらしました。

現在もインドネシアの離島漁港整備に携わる折下さん。50年以上にわたる世界の発展に貢献し続ける姿は、「技術

は人々の暮らしを豊かにするためにある」という信念そのものです。同窓生の皆さまもインドネシアを訪れる機会があれば、ぜひジャカルタ漁港を訪ね、見学してみてください。折下さんのお話しを伺うこともできますよ。

ノーカット詳細版は同窓会ホームページ、こちらより。



ウイズはこの様な所です

相談役 斯波 千秋 (高20回卒)



30年前(1996年)に多くの支援者の応援のもと全国初の視覚障害者中心の楽しい居場所、仕事や訓練の場として作業所「ウイズ」ができました。何より人生の途中で見えない、見えにくい状況になった方々に「見えないからできない!諦める!」ではなく「どうやったらできるかを考え工夫をし、道具を作り練習する。それでもできないこと

は周囲の人の手伝いを求める」を基本理念としています。視覚を使わずに日常生活や仕事をできる様にして、もう一度社会で楽しく生きる技術と精神力をつける技術を「視覚障害リハビリテーション」と言い、県下でも稀な施設です。視覚障害者の使う白杖も工夫を重ね、加工や組み立てをすることで全国シェア60%を占める頃もありました。開所4年で点字印刷の技術と印刷機を得て、「広報はままつ」や「ゴミカレンダー」等の印刷が可能となり多くの視覚障害者に情報保障をし喜ばれています。

浜松は日本点字考案者の石川倉次、点字新聞創刊者、中村京太郎の生誕の地です。指などで読む大切な点字を多くの方々に知っていただく為に開所時より点字入り名刺の印刷をやっています。全国の企業、団体からの大量の注文を見えない人達がペアを組み、一枚ずつ印刷しています。「ウイズ」は浜松市内3ヶ所(半田、蛸塚、鍛冶町)に拠点を置き合計80人程の方々が送迎もありますが、多くの方が白杖や盲導犬と共に電車、バスで通っています。見えない、見えにくいことで困っている人がいましたらウイズをご紹介します。またNPO六星(ろくせい)・ウイズのホームページもご覧ください。



次の100年を担う人材育成

同窓会長 斉藤 薫（高23回卒）



このたび、同窓会長として3期目を務めることとなりました。歴代会長の皆様が築かれた伝統を受け継ぎ、母校の発展に力を尽くしてまいります。

同窓会は、卒業生を結び、母校との絆を育む大切な役割を担っています。なかでも、100周年記念事業として始めた「海外フィールドスタディ」は、次の100年を担う後輩たちへの大切な取り組みです。

昨年7月のタイ研修に私も同行し、日系企業の訪問や現地大学生との交流を通じて、生徒が積極的に学び、短期間で大きく成長する姿を目の当たりにしました。そして本年7月には、3回目となる海外フィールドスタディをベトナムで実施しました。世界を自らの目で見て、多様な価値観に触れる経験は、教室では得られない貴重な学びであり、将来の財産になると期待しております。

この取り組みを継続できるのも、同窓生をはじめ、地域・企業の皆様の温かいご支援のおかげです。今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

次代を創る

校長 中村 泰子



同窓会の皆様には、本校の教育活動に対し、日頃から多大なる御理解と御協力を賜り心から感謝申し上げます。

次期学習指導要領では「ウェルビーイング」という言葉が最重要キーワードとして位置づけられています。「調和と協調」に基づいて、地域や社会全体、個人の持続可能で豊かな状態を目指すという考え方です。教育にはその実現のために、個々人の学びを協働性の中で深め、その下支えとなる心身の成長を促す実践が求められています。本校では、校訓「知・仁・勇」のもと、豊かな知識と高い知性、豊かな心、たくましい力を育成してきました。この実践を基盤に、次代を生きる生徒たちの底力を作るべく、ますます教育の質を高めるとともに、社会のよき担い手となる人材を輩出する魅力ある学校であり続けるよう、教職員一同、教育活動に邁進してまいります。同窓会の皆様には、今後とも変わらぬ御支援をお願い申し上げます。

2026新春の集い収支報告書

(単位:円)

収入の部	科 目	金 額	摘 要
	広告売上	8,150,000	広告掲載先333件
	チケット売上	3,578,500	最終374枚(オンライン220枚、現金154枚) 来場者人数290人
	寄付金	552,551	寄付
	雑収入	9,494	預金利息
	本会計繰入	2,100,000	本会計より活動費として繰入
	合 計	14,390,545	

支出の部	科 目	金 額	摘 要
	会場費	4,137,435	グランドホテル会場費等
	手土産費	367,205	記念誌取材協力者等手土産、当日用手土産等
	印刷費	1,813,373	記念誌・チケット等
	会議費	2,094,626	幹事会・部会経費等・活動経費等
	通信費	246,395	案内・記念誌発送等
	事務費雑費	180,604	文具費、振込手数料等
	交際費	1,438,191	総会・フォーラム参加・部活動寄付・同窓会活動等
	渉外費	569,266	クライアントと打ち合わせ・広告営業等
	外部委託費	143,450	広告対応等外部委託
	繰越	3,400,000	活動費返金および繰入金
	計	14,390,545	

上記のとおりご報告申し上げます。

静岡県立浜松西高等学校
第57回卒 2026新春の集い幹事会幹事代表 河田 宗樹 ㊞
会 計 河合 一輝 ㊞上記のとおり正確に処理され適正と認めます。
令和8年4月21日会計監査 大塚 哲雄 ㊞
会計監査 内山 正吾 ㊞

「新」少人数だからこそ挑戦した一年

河田 宗樹（高57回卒）



私たち高57回卒は、浜松西高校が中高一貫校となった年に入学しました。中等部が新設され、新しい制服が導入されるなど、西高に新たな風が吹いた節目の年です。一方で、高校からの入学者はそれまでの約半数となり、同窓生数の少ない学年として卒業しました。

そして20年後、その私たちが新春の集いの幹事学年となりました。準備を進める中で、この会が一年間にわたる準備や協賛活動など、多くの方々の支えによって成り立っていることを改めて実感しました。

卒業生数が約半数となったため、限られた人数でも、この伝統ある新春の集いを次の世代へつないでいくためには、新しい運営の形が必要ではないか。そんな思いから、今年のテーマを「新」としました。

その一歩として、進捗会議や執行部会のオンライン化、紙チケットを廃止した完全電子チケット化に取り組みました。初めての試みであり、ご案内が十分でなかったため、ご迷惑をお掛けしたこともあったかと思えます。紙面をお借りしてお詫び申し上げます。しかし、皆様のご理解とご協力のおかげで、当

日の受付は大きな混乱もなくスムーズに運営することができました。また、会当日には新春の集いをより良いものとしていくためのアンケートを実施しました。いただいたご意見は役員会で報告し、次の幹事学年へ引き継いでまいります。皆様の声が、これからの新春の集いを支える大切な財産となることを願っています。

最後になりますが、準備段階から当日まで支えてくれた57回の仲間たち、協賛企業・団体の皆様、そしてご参加いただいたすべての同窓生の皆様により御礼申し上げます。卒業から20年を経て再びつながることができたご縁に感謝するとともに、この伝統が次の100年へ受け継がれ、さらに発展していくことを期待しています。

2027年新春の集い

2027年新春の集い

代表 田中 翔悟 (高58回卒)



2027年1月2日の新春の集いを開催するにあたり同窓会関係者の皆様、広告協賛にご協力くださった先輩、後輩の皆様による多大なるご支援、ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

今回の新春の集いのテーマは『樂(がく)』としました。『樂』の旧字一文字で伝統的や歴史的といった意味とそして何よりも『樂』しむということを念頭に置いて活動しております。

一般的には同窓会幹事年という大変さといったネガティブなイメージを抱かれがちです。幹事年の我々が準備段階から『樂』しみ、1月2日に参加される皆様に『樂』しんでもらえる同窓会にすることで、今後少しでも多くの同窓生に携わって頂けることを願っております。

そして同窓生の皆様と世代を超えた交流を深め、絆を深めていきましょう。本文を読んでいただいた同窓生の方、ありがとうございます。

2027年1月2日にマリOTTホテル(旧グランドホテル)で新春の集いを開催します。
それではマリOTTでお会いしましょう！

高58回卒は『樂』しく活動しています！

私たち高58回卒は、新春の集いのテーマ『樂(がく)』のとおり、『樂』しく活動しています。

現役時代にはほとんど話したことなかった同級生と改めて交流したり、これまで接点のなかった先輩方と一緒にさせていただく機会も増えました。同窓会だからこそ生まれる新たな出会いやつながりに、日々多くの刺激をいただいています。

多くの皆さまに支えられながら、高58回卒一同、新春の集い当日までさらに盛り上げてまいります。

当日は、懐かしい友人との再会はもちろん、新たな交流が生まれる、笑顔あふれる一日になることを願っています。



高58回卒一同、皆さまとお会いできることを心より『樂』しみにしております。
1月2日はマリOTTで会いましょう！

視覚障害を越えて届ける科学の感動、SEM画像の触知図化への挑戦

小粥 隆弘 (高58回卒)

私は西高の理系クラスを卒業後、筑波大学大学院で理学博士を取得しました。紆余曲折を経て、現在は地元の新潟県立大学に勤務しています。当館が収蔵する走査電子顕微鏡(SEM)の最大倍率は一万倍。そこから見えるミクロの世界は、驚きと感動に満ちあふれています。

突然ですが、ご自身の髪の毛を一本つまんでみてください。爪で毛を挟み、①根元から毛先へ、②毛先から根元へ、と順に滑らせてみます。①の方が抵抗なくスムーズに動いたのではないですか。



▲髪の毛を触ってみよう
▲髪の毛を触ってみよう
▲髪の毛を触ってみよう

SEMで髪の毛を拡大すると、板状のキューティクルが毛先に向かって鱗のようにな重なっているのが見えます。②の違和感、このキューティクルの縁が指に引っかかっていたからなのです。

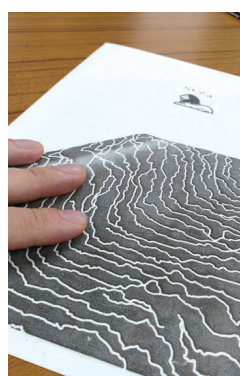
しかし、視覚に障害がある方は、このミクロの面白さを目で見て楽しむことができません。私はこの壁を少しでも崩したいと考え、SEM



▲拡大した髪の毛と筆者

画像の触知図化に取り組みました。触知図とは、公共施設の立体地図図のように「触って知る図」のことです。

最初は画像をそのまま凸凹にしてみました。情報量が多すぎて触っても何が何だか伝わりませんでした。そこで私は、不要な背景や細かなノイズを削ぎ落とし、あえて「情報を減らす」編集を施しました。これを立体化して視覚障害者の方々に触っていただいたところ、「キューティクルの模様がわかる！」と、見事にミクロの世界を共有することができたのです。



▲触知図化したライオンの毛

この「SEM画像の触知図化」の独創性が評価され、このたび日本科学協会より笹川研究奨励賞をいただきました。今後も誰もが科学の面白さを体感できる場所を目指し、努力を続けてまいります。皆さまも科学館へお越しの際は、ぜひお声がけください。一緒にミクロの世界を探検しましょう。

世界で戦う日本企業を、組織と人材の変革で支える

村松 美佳 (高58回卒)

現在、デロイト トーマツ合同会社において、組織・人事領域のコンサルタントとして、企業のグローバル化に伴う組織・人事変革を支援しています。

浜松西高等学校を卒業後、大阪大学外国語学部に進学し、在学中にドイツへ留学しました。多様な国・地域の人々との交流を通じて、日本企業の強みや価値が海外で十分に認知されていないことを実感し、日本企業の国際的な競争力向上に貢献したいと考えようになりました。

新卒で日系メガバンクに入社後、日本国内でグローバル企業を担当し、その後ドイツ駐在を経験しました。現地では、日系企業の現地法人やM&A後の統合を進める企業に対する金融サービスの提供を通じて、海外事業の成長及びグローバル展開を支援しました。

帰国後は人事部に異動し、人事戦略及び組織運営に携わる中で、日本企業が持続的に競争力を高めるためには、人事・組織の変革が不可欠であると考えるに至りました。この問題意識から、休職の上、ドイツのMannheim Business SchoolでMBAを取得し、経営及び組織・人材マネジメントを学んだ後、現在の会社に転職しました。

現在は、グローバル展開を進める企業に対し、組織・人事の変革や人材マネジメントの高度化を支援しています。





▲MBAの同期と

企業が変革を通じて新たな成長を実現し、国際的な競争力を高めていく過程に携われることに、大きなやりがいを感じています。今後も、人と組織の力を最大限に引き出すことで、日本企業が世界でより大きな価値を発揮できるように貢献していきたいと考えています。

「知・仁・勇」が支える空の安全

阿知波 亮二（高58回卒）

現在、全日本空輸株式会社（ANA）でボーイング777の機長として乗務しています。

よく「国内線パイロットですか、それとも国際線パイロットですか？」と聞かれることがあります。しかし、パイロットの資格は国内線・国際線で分かれているわけではなく、機種ごとに分かれています。基本的に同じ時期に操縦できるのは一つの機種だけです。そのため、担当する機種が就航している路線



▲コクピット内

であれば、国内線・国際線を問わず乗務します。私が操縦しているボーイング777は大型機なので、国内線では新千歳や那覇などの幹線、国際線ではニューヨークやシカゴ、ロンドンなどの長距離路線を飛ぶことが多いです。

西高では理系クラスに所属し、数学や物理が好きでした。一方で英語は苦手な手では逃げ続けていました。そのため、国際線に乗務するようになった今でも英語には苦労しており、現在も英会話の勉強を続けています。部活動はサッカー部に所属し、体力だけでなく、最後まで諦めない精神力や仲間と協力することの大切さを学びました。

西高卒業後は名古屋大学工学部物理工学科へ進学しました。しかし、もとパイロットになることが夢だったため、大学3年生の途中で辞め、国のパイロット養成機関である航空大学校へ進学しました。

パイロットという仕事は、出世を競ったり、人より上手に操縦することを目指したりする仕事ではありません。失

敗やヒヤリとした経験、あるいは小さな気づきを仲間と共有し、全員で安全を守る文化があります。

この考え方は、西高での経験にも通じています。サッカー部引退後も、部員みんなで学校帰りに自習室へ集まり、お正月も初詣の後にそのまま勉強（行くなど、一人ではなかなか続けられないことも仲間と励まし合いながら乗り越えました。航空大学校でも、「良い成績を取る」とよりも、「同期全員が一人も欠けることなく卒業し、みんなパイロットになること」を目標に生活していました。西高で学んだ仲間と支え合う大切さは、今の仕事でも大きな財産になっています。



▲ロンドンにて

最後になりますが、「阿知波（あちは）」という苗字は少し珍しいので、もし将来、機内アナウンスで「今日の機長は阿知波です」と耳にする機会がありましたら、「西高出身の卒業生が頑張っているな」と思い出していただけ幸せです。

統計・データで社会を支える官・民・国際舞台での挑戦

樽松 良祐（高58回卒）

2013年に国家公務員として総務省に入省し、統計行政を中心に、統計調



▲国連の会議。南アフリカでのスピーチの様子

査の企画・実施・公表や、統計行政全般の制度設計などに携わってきました。

総務省統計局が5年に一度実施している国勢調査は、我が国に住む全ての人を対象とし、日本の人口や世帯等に関する基礎的事項を調査する統計調査です。平成27年国勢調査の際には、オンライン調査を初めて全国導入するための法的整備を担当しました。また、調査を円滑に実施するため、各府県や都道府県・市区町村の職員の方々へ調査方法の説明に回り、多くの方々に協力をいただきましたながら、無事に調査を終えることができました。この国勢調査の結果をもとに、例えば、平成29年の衆議院小選挙区の区割り改定が行われ、自身の仕事

が民主主義の根幹である選挙制度を支えていることを実感しました。

内閣府に出向した際は、四半期別GDP速報（QE）の推計・公表を担当しました。結果がニュースや新聞で大きく取り上げられるたびに、統計作成という仕事の社会的インパクトの大きさと、

常に社会から必要とされる責任の重さを感じました。

また、2年間の米国留学（カーネギーメロン大学）、ニューヨークの国連統計部での業務を経験し、データ分析の専門性を高めるとともに、他国の統計局や国際機関職員との交渉・関係構築を通じて、国際的な視点を獲得することができました。

現在は、官民人事交流により、損害保険ジャパン株式会社に就任しています。データドリブン経営推進部にて、同社が「データによって経営判断・業務判断を行い、成果に繋げる」ため、データ活用施策の推進として、例えばAI・データサイエンスを活用した営業促進のための業務アプリ開発に携わっています。官の立場だけでなく、民の立場でもデータを利活用するために、マイクロデータの整備の重要性を改めて感じています。

行政官の仕事は社会的に重要なものばかりで、やりがい非常に大きいです。その反面、体力的・精神的にタフな仕事が多いと感じています。浜松西高サッカー部で鍛えた体力・精神力が、行政官として働く基礎となっています。

AIを始めとする技術が急速に発展する中、データの重要性はますます高まっています。官民両方の視点、また、国際的な視点をもちつつ、浜松西高出身の行政官として、より質の高い統計・データを提供することにより日本をさらに良い国にしていきたい、今後も頑張っていきたいと思っています。

※本稿は筆者個人の見解であり、所属機関の見解を示すものではありません。

令和7年 浜松西高 海外フィールドスタディ支援事業レポート



西高100周年を機にスタートした人材育成支援事業「海外フィールドスタディ」が昨年も行われました。他国の文化や日本との関係を現地で感じることで「社会貢献への高い志を持つ国際社会のリーダーとしての輝く人材の育成」を目指しています。

今回は2025年7月19日～24日の4泊6日の日程で、生徒20名、引率4名、計24名で、タイに進出する浜松の企業やユタヤ市内を訪問しました。



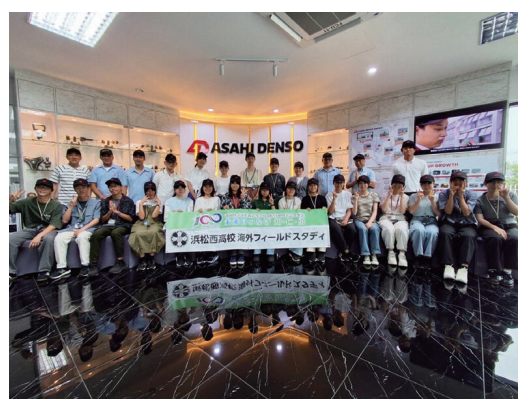
7月19日から24日の4泊6日でタイ王国を訪れた。

そこで浜松からタイに進出している4企業を訪問させて頂いた。

まず2日目の朝日電装株式会社は、1961年に設立し、浜松市浜名区染地台に本社を置いていて、THAAS AHI DENSOはタイ企業の「アンパシンダストリー」と「朝日電装」の合併会社として1997年に設立した。

タイ国内での仕事内容は、オートバイに使用されるスイッチ、ロック等各種電装部分の製造、販売などで、実際の現場を拝見することができ、色々な工夫がされていることを知り、良い勉強になった。

次に小楠金属を訪れた。広大な敷地に天井の高い工場、その中に何十台もの機械が置いてあり、工場の大きさに



海外フィールドスタディを終えて



圧倒された。

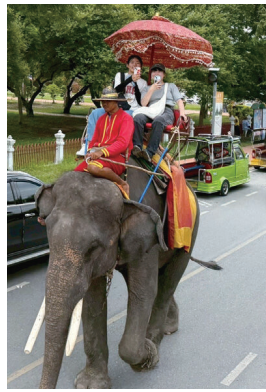
車を製造している会社といえはやはり車の車体を作り、販売をしている企業が浮かぶが、その部品や装置を作る会社があつてこそ成り立つと分かり、かつこいと思つた。

部品一つ一つに精密な作業が必要であり、さらに厳重なチェックがなされていて、車一つ作るのにも様々な企業の努力があるのだと分かった。

4日目には、ヤマハを訪れた。はじめにヤマハのあるオフィスを見学した。共同スペースではたくさんの方がミートイングを行っていた。

その後、ヤマハのミュージックホールで紹介ビデオを視聴し、生徒による事前課題の発表を行った。休憩後、演奏ブースやライブブースの見学を行った。そこではさまざまな楽器を体験することができた。

5日目はカッヤマファインテックを訪れた。見学を通して特に印象的だったのは、タイの宗教や価値観に配慮し、



タイの方だけでなく日本人同士の引き継ぎなどのコミュニケーションも大切にされていたことだ。

現地の方々が一つ一つの作業を丁寧に確認しながら仕事をされている姿から、タイの方に心地よく働いてもらうための企業の工夫がされていると感じた。

企業見学以外にも、浜松いわた信用金庫タイ駐在事務所や、泰日工業大学での交流、アユタヤとバンコクでの観光を行った。

タイスキやカオマンガイ、トムヤムクンなどタイの料理を味わったり、お寺に行ったり、象乗り体験や水上マーケット、買い物値段交渉をしたり、日本と同じアジアでありながら体験できないことをたくさん経験できた。

私たちはこの6日間の海外研修を通して、たくさんの方の地元企業が世界で活躍していることに肌で感じ、とても貴重な経験となった。日本にいたら知らなかったことがたくさん学びとして得られたため、海外研修によって大きく成長できたと感じる。

これから周りの人への感謝を忘れずに、異なる価値観を尊重しつつ、協力する姿勢を大切にしていきたい。



付き添いの方のコメント

海外フィールドスタディ

清水 孝彦 (高32回卒)

昨年に引き続き2回目の添乗となりました。驚きは女子生徒17名男子生徒3名の構成！部活事情などを差し引いても、女子生徒のその積極性に拍手です。

当地からの進出先は製造業が多い中で、今回はヤマハ様のタイ販売拠点への訪問が印象的でした。代表の「折角の機会だから英語でany question please!」の挑戦？をモノとせず、英語に自信ある生徒さんだけでなく、3名の生徒さんも単語とセンテンスをつなげてコミュニケーションをとる姿に感動しました。西高生、すごい！

海外フィールドスタディ 2025

藤森 将斗 (高62回卒)

全体を通して大きなトラブルなく全員無事に帰国できました。各視察先企業には非常に手厚いおもてなしを頂き、生徒達においては事業に趣旨のひとつである「地元愛」が一層強まったのではないかと考えられます。加えて、生徒達の日頃の努力、フィールドスタディを迎えるにあたっての事前学習、視察中の積極的な学びとする姿勢が相まって本年のフィールドスタディも昨年に引き続き有意義な活動となったと感じました。

活躍する同窓生

故郷の風景とともに描く 初の長編映画公開へ

脚本家・映画監督
後藤 美波 (高63回卒)



2011年卒業、脚本家・映画監督の後藤美波と申します。

現在、浜松市をベースに、初の長編監督作品の制作を行っています。

それは、結婚を機に浜松に移り住んだ韓国アーティストが主人公の物語。私自身が創作の壁にぶつかったり、国際結婚をきっかけとした環境の変化の中で、自分の居場所に悩んだりした経験を色濃く反映しています。

舞台は浜松市の中央区舞阪町。私の名前「美波」も舞阪の海辺の景色に由来していて、幼い頃からよく通ったこの町

で自身の長編制作を撮ることが、ずっと夢でした。

本作は日韓共同制作で、韓国の制作会社と組み、日韓両方から俳優とスタッフを招いて撮影を行いました。地元の方々にもたくさんのご厚意をいただき、海辺や住宅街、神社やパブ、カフェなど幅広いロケーションを画面に収めることができました。また、多くの方にご本人役としてご出演もいただいたおかげで、リアリティのある空気を作り上げることができました。さらに、西中・西高時代からの親友で、現在はフリーアナウンサーとして活躍している大久保結奈さんと娘の絆ちゃんにも出演してもらうことができて、作品がより一層特別なものになりました。

怪我や事故もなく無事に1ヶ月間の撮影を終えることができ、撮影スタッフやご協力くださった方々には感謝の気持ちでいっぱいです。撮影前から今まで迷惑をかけ通しの家族にも、この場をお借りしてお礼を伝えたいです。

現在は、日本・韓国・アメリカ・シンガポールという国際色豊かなチームでポストプロダクション作業(編集やサウンドトラック制作など)を行っています。完成まであと一歩です。

映画館でのお披露目は、来年2027年を予定しています。

特に浜松市での上映の際には、関連トークイベントなど、色々な試みを行っていったらと考えています。

上映日などが決まり次第、西高同窓会のLINEでご案内させていただきますので、ぜひ楽しみに！

クラブ活動報告

サッカー部

受け継がれる伝統を力に、さらなる高みを目指して



サッカー部は、今年で創立80年目を迎えております。

昨年度は、西部サッカーユースリーグ1部で3位となり、今年は静岡県サッカーユースリーグCリーグに初めて昇格しています。セカンドチームが、本年度より西部サッカーユースリーグ3部に出場しております。本年度の高校総体では、西部6位で県大会に出場しま

した。県大会では、2回戦で島田商業に勝ち、県16強に入ることができました。どの試合も多くの卒業生、OBの皆さんが応援に来てくださり、選手を勇気づけていただき、大変感謝しております。

毎日の練習では、内藤監督の指導のもと基本練習やフィジカルトレーニング、ゲーム形式のトレーニングなどを行い、日々向上するよう努めています。また、学校生活では、あいさつや掃除といった基本的な生活習慣を大切に、西高での学校生活を充実したものにしよう努力しております。

10月に始まる全国高校選手権の静岡県大会では、ベスト8以上を目指し、また、西高サッカー部の伝統を大切にしながら、これからも一生懸命活動していきます。
(現役記事)

先輩から後輩へ、 80年の伝統と誇りをつないで

サッカー部が創部80周年という大きな節目を迎えました。サッカー部OB会として、心よりお祝い申し上げます。昭和、平成、令和と受け継がれてきた歴史は、多くの部員や指導者、保護者、関係者の皆様のご尽力によって築かれてきました。この節目を記念し、令和8年8月1日に記念式典、翌2日には伝統の「西北戦」を兼ねた記念試合が開催されました。式典では世代を超えた多くのOBや関係者が一堂に会し、80年の歴史を振り返るとともに、今後のさらなる発展への思いを新たにしました。記念試合では、現役生から各世

代のOBまでが熱戦を繰り広げ、伝統と絆をあらためて実感する機会となりました。結びに、80年の伝統を礎に、「激しく速く美しく」の精神と「浜西魂」を受け継ぐ現役部員たちが、さらなる飛躍を遂げ、新たな歴史を築いていくことを心より祈念いたします。
(OB一同)

浜西バレー ビーチの舞台で躍進！ 全国大会・国スポへ続々出場



3年生の杉野結衣菜が、聖隷高校の選手とペアを組み、ビーチバレーボール県予選で見事優勝を果たしました。これにより、8月8日から11日に愛媛県伊予市で開催される「マドンナカップ in 伊予市」JVA第30回全日本ビーチバレーボール高校選手権大会(女子)への出場が決定しています。

また国民スポーツ大会ビーチバレーボール競技の静岡県代表にも選出され、袋井商業高校の選手とのペアで東海ブロック大会を1位で通過し、9月3日から6日に開催される本大会への出場権を獲得しています。

2年生の鈴木奏真は、浜松北高校の

選手とペアを組み、県大会でベスト4に進出しました。

中等部3年の石津雄琉も県予選を勝ち抜き、8月15日・16日に開催される「HEKINANMAN MOSCUP」JVA全日本ビーチバレーボールU15選手権大会への出場を決めています。

昨年度には金原康太さんが国民スポーツ大会で4位入賞を果たしました。廃部から20年――。

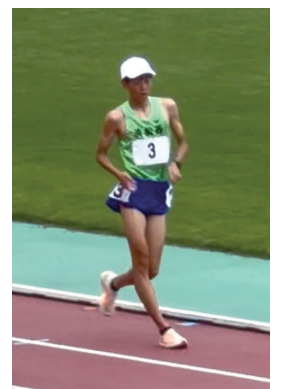
それでも浜西バレーの挑戦は続いています。競技の形を変えながらも、浜西バレーの魂は今も確かに受け継がれています。



陸上競技部 県総体で男子総合優勝 インターハイ出場へ

日頃より、OB・OGの皆様から温かいご支援とご声援をいただき、心より感謝申し上げます。皆様の励ましが、部員たちの大きな力となっています。

今年度は顧問が交代し、新たな体制



で活動をスタートしました。伝統を大切にしながら、部員一人ひとりが目標に向かって日々努力を重ねています。

その成果の一つとして、今年度の県総体では男子総合優勝(トラック1位、フィールド3位)を果たすことができました。この総合優勝は、浜松西高校陸上競技部として初の快挙となりました。これは、部員たちが日々の練習に真摯に取り組む、互いに切磋琢磨しながら努力を積み重ねてきた成果であると考えています。また、昨年度まで顧問を務めてくださった平野聡先生の多大なるご尽力の賜物でもあり、改めて心より感謝申し上げます。

今年度入部した1年生も先輩たちの姿に刺激を受け、「次は自分たちが伝統をつないでいく」という高い志をもつて日々の活動に励んでいます。学年の垣根を越えて互いに声を掛け合い、高め合える雰囲気、本校陸上競技部の大きな強みとなっています。また、競技力の向上だけではなく、人としても成長できるよう、気持ちの良い挨拶や整理整頓、ルールやマナーの徹底、そして感謝の気持ちを忘れずに活動することを大切にしています。こうした日々の積み重ねが競技力の向上にもつながると信じ、文武両道を目指して全

員で努力を続けています。

今後とも伝統ある陸上競技部のさらなる発展を目指し、部員・顧問一同、一層精進してまいります。引き続き、OB・OGの皆様の温かいご支援、ご声援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。



ボート部 「6月20日(土)、21日(日)に、愛知池漕艇場にて東海総体が行われました」

本校からは以下の4クルーが出場しました。

女子シングル2クルー(3年、2年)

男子シングル1クルー(3年1人)

男子舵手付クオドルプル1クルー

結果は以下のとおりでした。

・女子シングルは2位(3年)、3位(2年)

3年生はインターハイに向けて良い収穫と課題をいただきました。更に成長してくれると思います。

2年生は成長著しいです。さらに上

のレベルになりたいという意欲が育つてくれることを願っています。

・男子シングルは3位

浜松西高校の男子シングルとして32年ぶりに全国大会の扉を開いた生徒でした。インターハイ出場はかないませんでした。敗者復活戦から勝ち上がり、3位入賞はさすがでした。

・男子舵手付クオドルプルは5位

予選では会心のレースができました。決勝も思い切ったチャレンジした結果なので、立派だったと思います。浜松西高校の男子クオドルとして誇らしい漕ぎをしてくれました。

昨年、一昨年と、女子シングル1名とマネージャー1名での東海総体出場でした。今回は2・3年生全員の11人で出場できたため、チームとして戦うことができた東海総体でした。

3年生7人のうち、6人が、今回の東海総体で引退します。私が学年主任を



務める学年の生徒でしたので、3年間ともに進級して活動してきました。

つい最近まで1年生だと思っていた生徒たちが、あつという間に3年生になり、引退の日を迎えました。

私自身、担任だったときは違った部活運営をせざるを得なくなり、生徒には我慢させることも多くなりました。

しかし、生徒が主体的に活動するチャンスと捉え、今まで一番いろいろなことを生徒に任せた学年でした。

たくさん苦労を掛けたと思います。が、今回の大会への取り組みを見ていて、とても成長を感じました。彼らにとってボート部での日々が今後の彼らの人生を支える財産になってくれることを願います。



▲K-MIXラジオ番組「ズミ、学校へ行く」にてボート部の小野さん(3年)が取材を受けました!

残る3年生は女子シングルの1人だけとなりました。同級生が全員引退する中、8月10日、13日に滋賀県で行われるインターハイに臨みます。先輩も同級生もいない中で入部してきてくれた、意志のある生徒です。

きつと素晴らしいインターハイになると期待しています。皆様に良い報告ができるように、今後とも日々、誠実に活動してまいります。

柔道部 57年ぶりの東海大会出場 今年度はインターハイへ

柔道部は昨年57年ぶりに東海大会出場を決め、今年度も団体・個人共に東海大会に臨んだ。さて、8月に和歌山県で行われる全国総体に32HRの杉本晴哉さんが出場する。大会の抱負を聞くと「優勝」と頼もしい答えを返してくれた。「いつも支えてくれる先生方、保護者、OB・OGの皆様、友達への感謝を込めて戦いたい。」と模範的な言葉が続いたが、これは本心から杉本さんが大事にしていることである。柔道の厳しい練習を頑張る姿だけではなく、普段の学校生活の様子からも人柄の良さがよく分かる。心技体が備わった選手として頼もしく、応援したいと思わせてくれる。

監督の渥美先生からは、「勝ちを積み上げるために、何ができるか常に考えていきたい。」とお言葉をいただいた。日々共に励む仲間、近くで支えてくださる保護者の方々、そしてお忙しい中、時には会場まで足を運んで励ましてくださるOB・OGの皆様。たくさん思いを乗せて、全国大会で活躍してくれることと思う。そして、大会後は多くの人々の温かい想いが重なってできたこの場所を、次の世代へ繋げてほしい。

浜松西高校第20回卒31HR 喜寿を祝う会

令和8年7月25日(土)、浜松市中区海老塚の「マリポーサ」において、浜松西高校第20回卒業・31HR「喜寿を祝う会」が開催され、13名の同窓生が参加しました。

今回の同窓会は5回目の開催となります。前回は9年前、浜松西高校卒業50周年という節目を記念して開催されました。

「喜寿を祝う会」では、参加者全員が近況を報告するとともに、77年間の人生を振り返り、それぞれの思いや経験を語り合いました。年齢を重ねたことで身体の衰えを実感するという話題が多く聞かれた一方、厳しい現実を乗り越えながら歩んできた人生について、深い思いを語る方もおられ、参加者一同が互いの歩みに耳を傾ける貴重なひとときとなりました。

これからも同窓生の皆様が健康で元気に過ごされることを願うとともに、次回も多くの方々に参加し、この同窓会が未永く続いていくことを期待したいと思います。



浜松西高同窓会総会

令和8年度 浜松西高同窓会総会が開催されました

高58回同窓会幹事会
副代表 滝口 進也 (高58回卒)2026年6月6日(土)、浜松マリオットホテル(旧グランドホテル浜松)において、令和8年度浜松西高同窓会総会が開催されました。
中村泰子校長

からは、西高生の部活動での活躍や進学状況について報告がありました。また、同窓会事業である海外フィールドスタディをはじめとする日頃の支援に對し、感謝の言葉が述べられました。

議事では、令和7年度同窓会事業報告、一般会計決算及び監査報告、並びに「2026年新春の集い」の事業報告、決算及び監査報告が行われ、いずれも承認されました。

また、令和8年度同窓会役員の改選について審議され、副会長の小田木氏及び清水氏の退任、並びに佐野氏及び池野氏の新任について承認されました。

続いて、令和8年度同窓会事業計画、同窓会報編集計画及び一般会計予算案が提案され、承認されました。

「2027年新春の集い」代表幹事からは、メインテーマを「樂(GAKU)」とすることが発表されました。創立10

2年を迎えた浜松西高の伝統を継承する思いを旧字体の「樂」に込めるとともに、「樂」しい会づくりを通じて参加者100人増を目標としていること、また、その実現に向けて幹事学年が「樂」しく準備に取り組んでいることが説明されました。

さらに、多くの同窓生に参加していただくため、チケットの事前購入による早割価格の導入や若年層向け料金の設定などを盛り込んだ事業計画及び収支予算案について説明があり、審議の結果承認されました。
会の締めくくりには、出席者全員による校歌斉唱が行われ、西高の伝統と同窓生の絆の深さを改めて感じる総会となりました。

役員が変わりました



内山会計監査



池野副会長



鈴木副会長



筒井副会長



斉藤会長



大塚会計監査



佐野副会長



寺田副会長



薩川副会長

令和7年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計
決算書

前期繰越金	21,869,626円	支出総額	6,194,734円
収入総額	7,963,425円	次期繰越金	23,638,317円

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	決算額(B)	比較増減額(B-A)	備 考
前期繰越金	21,869,626	21,869,626	0	前年度繰越金
入 会 金	4,800,000	4,900,000	100,000	高78回卒業生 245名
基金利子配分金	2,000	2,000	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰 入 金	1,200,000	1,300,000	100,000	新春の集い余剰金
雑 収 入	20,000	1,761,425	1,741,425	預金利子、同窓会名簿代等
合 計	27,891,626	29,833,051	1,941,425	

支出の部

科 目	予算額(A)	決算額(B)	比較増減額(B-A)	備 考
事務費	1,150,000	927,444	△ 222,556	
事務局費	1,000,000	831,744	△ 168,256	事務局職員給与、光熱費他
需用費	150,000	95,700	△ 54,300	複写機リース料等
会議費	450,000	384,066	△ 65,934	
総 会 費	300,000	209,680	△ 90,320	総会会議費
役員会費	150,000	174,386	24,386	役員会会議費他、香典、弔電、御花代
事業費	5,600,000	4,883,224	△ 716,776	
会 報 費	3,500,000	3,123,895	△ 376,105	会報印刷代・送料 会報編集委員会運営費等
助 成 費	1,000,000	625,669	△ 374,331	慰霊祭、激励費、西山賞、講演会謝礼 西山台チャレンジサポート事業等
HP作成費	1,100,000	1,133,660	33,660	ホームページ作成・修正
次期繰越金	20,691,626	23,638,317	2,946,691	
合 計	27,891,626	29,833,051	1,941,425	

以上のとおり報告します。

令和8年3月31日
静岡県立浜松西高等学校同窓会
会 長 斉藤 薫
会 計 清水 孝彦上記の決算について証拠書類、納納簿を精査したところ、
適正かつ正確であることを認めます。令和8年4月21日
会計監査 大塚 哲雄 ㊞
会計監査 内山 正吾 ㊞令和8年度 静岡県立浜松西高等学校同窓会一般会計(案)
予算書

前期繰越金	23,638,317円	支出総額	6,600,000円
収入総額	5,822,000円	次期繰越金	22,860,317円

収入の部

(単位:円)

科 目	予算額(A)	令和7年度 決算額(B)	比較増減額(A-B)	備 考
前期繰越金	23,638,317	21,869,626	1,768,691	前年度繰越金
入 会 金	4,800,000	4,900,000	△ 100,000	高79回卒業生 240名 (高78回 245名)
基金利子配分金	2,000	2,000	0	甲子園出場記念基金利子配分金
繰 入 金	1,000,000	1,300,000	△ 300,000	新春の集いの余剰金
雑 収 入	20,000	1,761,425	△ 1,741,425	預金利子、同窓会名簿代等
合 計	29,460,317	29,833,051	△ 372,734	

支出の部

科 目	予算額(A)	決算額(B)	比較増減額(A-B)	備 考
事務費	1,150,000	927,444	222,556	
事務局費	1,000,000	831,744	168,256	事務局職員給与 光熱費 等
需用費	150,000	95,700	54,300	複写機リース料等
会議費	450,000	384,066	65,934	
総 会 費	300,000	209,680	90,320	総会会議費
役員会費	150,000	174,386	△ 24,386	役員会会議費
事業費	5,000,000	4,883,224	116,776	
会 報 費	3,300,000	3,123,895	176,105	会報印刷代・送料 編集委員会運営費等
助 成 費	1,000,000	625,669	374,331	慰霊祭、激励費、西山賞、講演会謝礼 西山台チャレンジサポート事業等
HP作成費	700,000	1,133,660	△ 433,660	ホームページ修正 LINE公式アカウント
予備費	0	0	0	
次期繰越金	22,860,317	23,638,317	△ 778,000	
合 計	29,460,317	29,833,051	△ 372,734	

※科目間の流用を認める

確定版 | 令和7年度(令和8年4月進学) 入試結果概要

2026/4/9 現在

1 入試合格状況(推薦・総合型等含む)

	令和8年度			令和7年度			令和6年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立大	130	15	145	133	12	145	117	18	135
私立四大	557	57	610	590	60	650	635	91	726
国公立立短大	0	0	0	0	0	0	9	0	9
管外大学校	2	1	3	0	0	0	1	0	1
各種専門学校	4	1	4	1	0	1	1	0	1

2 国公立大学

大学名	令和8年度			令和7年度			令和6年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
北見工業大									
室蘭工業大									
帯広畜産大									
北海道大	4		4		1	1	1		1
弘前大									
岩手大				1		1			
東北大				1		1	2	1	3
宮城教育大									
秋田大				1		1			
茨城大				4		4	1		1
筑波大	1	2	3	5	1	6	1	1	2
宇都宮大				1		1			
群馬大									
埼玉大	1		1	1		1			
千葉大	2		2	4		4			
お茶の水女子大	3		3						
東京大	1		1	2	1	3	1	2	3
東京外国語大	1	1	2				2	1	3
東京学芸大	4		4	1		1	3		3
東京芸術大	1		1						
東京科学大(東医歯・東工大)	2		2	2		2	1		1
東京海洋大	1		1						
東京農工大	1		1				1		1
一橋大	1		1	3		3	3		3
電気通信大	1		1	1		1	2		2
横浜国立大	7		7	7		7		1	1
山形大	1		1						
上越教育							1		1
新潟大	1		1	1		1			
金沢大	2		2				1		1
富山大				2		2	2	1	3
山梨大	2	1	3	1		1	3		3
信州大	4		4	2	1	3	3		3
静岡大	18	1	19	24		24	19	2	21
浜松医大	5	1	6	6	1	7	7		7
愛知教育大	2		2	1		1	1		1
豊橋技術科学大							1		1
名古屋大	11	1	12	9	1	10	1		1
名古屋工大	2		2						
岐阜大	1	1	2	1		1	1		1
三重大	1		1						
滋賀大	1		1						
京都大	3	1	4	2	1	3	2		2
京都工芸繊維大							1		1
京都教育大									
大阪大	4		4	5		5	6		6
大阪教育大	1		1				1		1
神戸大	2	1	3				1	1	2
奈良教育大	1		1						
奈良女子大	2		2	1		1	1		1
和歌山大				1		1			
岡山大	2		2	1		1	2		2
広島大	3		3	2	2	4	1		1
鳥取大				2		2			
島根大									
高知大		1	1	1		1	1		1
徳島大	1		1	1		1			
鳴門教育大								1	1
香川大							1	1	2
愛媛大							1		1
山口大	1		1	1		1	2		2
九州大	1		1	1		1			
九州工業大									
長崎大	1		1						
大分大					1	1			
熊本大					1	1			
宮崎大				1		1			
鹿児島大							1	1	2
鹿児島大									
琉球大		1	1						
国際教養大	1		1				1		1
会津大									
公立小松	1		1				1		1
高崎経済大	2		2	1		1			
埼玉県立大							1		1
東京都立大	2		2	3		3	4		4

横浜市立大	2		2	1		1	2		2
金沢美術工芸大							1		1
石川県立大							1		1
都留文科大	1		1	1	1	2			
山梨県立大	1		1						
公立諏訪東京理科大	1		1						
長岡造形大				1		1			
富山県立大		1	1	1		1			
岐阜薬科大							1		1
静岡県立大	4		4	6		6	15	1	16
静岡文化芸大	4		4	7		7			
名古屋市立大	2	2	4	1		1	3	2	5
福井県立大							1		1
京都府立大				1		1	2		2
滋賀県立大				1		1			
京都市立芸術大				1		1			
大阪公立大(府市合併)	3		3	4		4	3		3
兵庫県立大	1		1				1		1
和歌山県立医科大				2		2			
岡山県立大				1		1			
高知工科大							1		1
下関市立大								1	1
大分県立看護科学大				1		1			
北九州市立									
九州歯科大	1		1						
長崎県立大									
宮崎県立看護大									
名桜大							1		1

3 私立大学(抜粋)

	令和8年度			令和7年度			令和6年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
慶應義塾大	4	2	6	6	2	8	6	1	7
早稲田大	11	1	12	12	2	14	13	3	16
明治大	20	5	25	27	4	31	32	9	41
立教大	9		9	8		8	22	4	26
法政大	13	2	15	13		13	10	4	14
同志社大	10	3	13	14	4	18	23	2	25
立命館大	40	11	51	72	5	77	77	10	87
関西学院大	12	3	15	9	4	13	13	3	16
関西大	14	1	15	3		3	12		12
近畿大	25	2	27	21	5	26	22	6	28
上智大	8		8	2		2	7		7
中央大	8	2	10	24	4	28	12		12
青山学院大	4		4	2	1	3	11	2	13
東京理科大	26	2	28	12	7	19	20	8	28
芝浦工大		1	1	10		10	4	2	6
東京農大	9		9	8		8	13	1	14
明治学院大	7	2	9	4		4	7		7
日本大	3	1	4	4	1	5	4		4
東洋大	11		11	2		2	11		11
駒澤大	4		4	4	3	7	4	2	6
専修大	9	1	10	5		5	15	3	18
常葉大	13		13	19		19	17	1	18
聖隷クリストファー大	12	1	13	7		7	15		15
南山大	13		13	21		21	16	5	21
名城大	39	1	40	39		39	28	4	32
中京大	26		26	18	1	19	12		12
愛知大	21		21	17		17	14		14
愛知学院大	7		7	8		8	5		5
藤田医科大	9	1	10	5		5	7		7
獨協大		1	1	2		2		1	1
成蹊大	6	1	7	4		4			
成城大	2		2				1		1
学習院大				1		1			
北里大	8		8	3	2	5	7	1	8
順天堂大				9	1	10	8		8
東海大	3		3	7	2	9	7		7
津田塾大	2		2	1		1	3		3
東京女子大	3		3				1	1	2
日本女子大	5		5	3		3		1	1
神奈川大	4	1	5	15	1	16	16		16
岐阜聖徳学園大	3		3	1		1			
豊田工業大	2	2	4	2		2	3		3
京都女子大	5		5	1		1	4	1	5
同志社女子大	3		3	6		6	5		5
京都産業大	8		8	2		2	7	4	11
龍谷大	13	2	15	19	1	20	8	1	9

4 医学部及び管外大学校等

医学部医学科 (2、3と重複掲載)	令和8年度			令和7年度			令和6年度		
	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国公立	4	2		6	2	8	6		6
私立(含自治医等)		4		2	6	8	3	2	5
管外大学校	現役	卒	合計	現役	卒	合計	現役	卒	合計
国立看護大学校	1					0			0
防衛大学校	1	1		2		2	1		1
気象大学校						0			0

西山賞受賞者

西山賞とは「全国レベルで特に優れた業績功績を挙げた生徒に対して、4部門（文化芸術部門、スポーツ部門、善行部門、科学部門）に同窓会から卒業時に授与されるものです。」

中等部

●スポーツ部門

▼女子テニス

団体
(第52回全国中学生テニス選手権大会 出場)

●文化芸術部門

▼弦楽

団体
(日本学校合奏コンクール全国大会グラン・ドコンテスト R6最優秀賞 R5銀賞)

高等部

●スポーツ部門

▼陸上競技

吉澤 公貴
(U16ジュニアオリンピック 男子110mハードル 出場)

▼三浦 想空

(U18ジュニアオリンピック 男子棒高跳 出場／全国高校総体陸上競技大会 男子棒高跳 第5位)

▼グエンディンフー

(全国高校総体陸上競技大会 男子三段跳 R6出場／U18ジュニアオリンピック 男子三段跳 出場／全国高校総体陸上競技大会 男子走高跳 出場)

▼鈴木 葉菜

(全国高校総体陸上競技大会 女子400m出場)

▼小野 真那

▼植田 彩貴

(全国高校総体陸上競技大会女子400mハードル 出場)

▼体操競技

田口 ののあ
(かごしま国体 出場／全国高校総体陸上競技大会 決勝進出)

▼ビーチバレー

金原 康太
(第79回国民スポーツ大会 第4位)

●文化芸術部門

▼弦楽

団体
(日本学校合奏コンクール 最優秀賞銀賞)

▼百人一首

団体
(小倉百人一首競技かるた第46回全国高等学校選手権大会 出場／小倉百人一首競技かるた第47回全国高等学校選手権大会 出場)

須山 菜鈴
(第49回全国高等学校総合文化祭香川大会 小倉百人一首かるた部門 出場)

榎部 心緒
(第48回全国高等学校総合文化祭岐阜大会 小倉百人一首かるた部門 団体戦第3位)

▼国際文化
団体
(第14回日本高校生パラメンタリーディベート連盟杯 出場)

叙勲おめでとうございます

同窓会会報誌では、これまで希望された叙勲受章者の方を掲載してまいりましたが、来年からは叙勲受章者としてではなく、卒業生の偉業紹介として掲載する方法に変更いたします。

令和7年秋叙勲

●瑞宝小綬章

まつだ よしみち
元公立高等学校校長

●瑞宝双光章

たかはし ゆきか
元浜松市南区選挙管理委員会委員長
元浜松市上下水道部長

ゴルフ大会

第50回記念ゴルフ同窓会
青空のもと開催

2026年度は第50回大会の節目となります。同窓ゴルフ大会が、5月20日（水）に浜名湖カントリークラブにて開催されました。

今年も天候が心配されましたが晴天に恵まれ144名の同窓生に同窓ゴルフを楽しんでいただきました。

優勝者は、一般の部は高36回の内山勝徳さん、シニアの部は高22回の片桐基義さん、レディースの部では高34回の花田雪乃さんが、優勝トロフィーを手にしました。

使用コース「中」浜名湖「潮見」ベースグロ賞は、「中」潮見「高34回の成田朋正さん、「浜名湖」潮見「高30回の松本清明さん、「中」浜名湖「西藤晋吉さんに輝きました。

皆さん、おめでとうございます。

今大会は、私たち幹事学年の至らなさから、多くの同窓生に開催の情報を届けることができず大変申し訳ございませんでした。次回も2027年5月に浜名湖カントリークラブにて開催予定です。皆さまにもお声がけいただき、たくさんのお声とプレーできることを楽しみにしております。



SPECIAL LECTURE

2014年ノーベル物理学賞受賞

名古屋大学特別教授／高31回卒
浜松科学館名誉館長天野浩氏
特別講演

第2部 15:15～

青色LED研究がIEEE
マイルストーン認定に
至るまで楽
～GAKU～2027年メインテーマ
「楽～GAKU～」

「楽」には、楽しさや安らぎという意味があります。浜松西高等学校創立102年の歴史と伝統を受け継ぐ想いを、この旧字体の一字に込めました。これまで先輩方が作り上げてきた歴史や伝統を継承し、新たな試みにも挑戦する思いを持って、幹事会一同「楽」しんで取り組んでまいります。諸先輩方や後輩との出会いや繋がりが持てることを「楽」しみにしております。



浜松西高58回卒同窓会幹事会

2027年 新春の集い

2027
1.2

受付13:00／開場13:30 開会14:30

浜松マリオットホテル 鳳の間 (旧グランドホテル浜松)

[第1部]式典 14:30～ [第2部]特別講演 15:15～ [第3部]懇親会 16:00～

主催：静岡県立浜松西高等学校同窓会／同窓会長：齊藤薫／幹事会代表：田中翔悟 (高58回卒)

最新情報は
こちらを
チェック!

同窓会Website

8月下旬から
参加申込
受付開始

おすすめ!

早割

申込期間：～12/29まで

一般 8,000円
高59回卒以降 5,000円
大学・専門学生 3,000円

定価

申込期間：12/30～1/1まで

一般 10,000円
高59回卒以降 7,000円
大学・専門学生 5,000円

当日

世代に関わらず 10,000円

【2027年新春の集いお問い合わせ】

静岡県立浜松西高等学校同窓会

高58回卒幹事会 (E-mailのみ受付)

E-mail: 2027gaku@nishiko-dousoukai.jp